

2008年7月31日発行



今回の紙面から（ページと内容）

- 1 会長代理挨拶
第26回大会のお知らせ
- 3 第2回国際春季フォーラムのご案内
理事会より
編集委員会より
- 4 *English Linguistics*第26巻1号への
投稿についてのお知らせ
- 5 大会運営委員会より
「第6回（2008年度）日本英語学
会新人賞」論文募集のお知らせ
- 6 会計報告
- 8 親と子の部屋について
連絡先等変更のご連絡のお願い

会長代理挨拶

会長代理 原口 庄輔

既に多くの会員がご存じの通り、天野政千代氏（名古屋大学教授・日本英語学会会長）が6月13日朝逝去されました。この知らせは、メールや新聞等で広く伝えられ、我々日本英語学会員を驚きと悲しみに落とし入れました。ご冥福を心よりお祈りします。

天野政千代日本英語学会会長の死去に伴い、学会の規定により、私が会長代理に就任することになりました。私は故天野会長とは、東北大学での同門であり、個人的にも酒を飲み交わしたりした親しい間柄でありましたので、後輩の残務処理をしっかりとやるのは先輩としての義務があると思います、会長代理として、学会のお世話をすることをつつしんでお引き受けしました。よろしくご協力のほどをお願いいたします。

天野会長が道半ばで倒れたことは、これからの日本英語学会の発展にとって、大きな痛手であり、誠に残念という他ありません。

故天野会長は、多くの人の支持で会長に就任されたのち、困難な状況の下で、優れたリーダーシップを発揮され、様々な改革に着手し、改革を強

力に推進しているところでした。その主なものをあげると、まず、(1) 日本英語学会の事務局を桐原書店から開拓社に移し、(2) 新人賞・機関誌等への投稿等の電子化を推進し、(3) 理事会等のメール会議の拡充を図り、事務処理と意志決定の効率化と財政の安定化に貢献しました。さらに、(4) これまでは全国規模の大会は年1回でしたが、英語だけによる国際的な大会として、国際春季フォーラムを新たに設置し、第1回大会が4月26日・27日に東京外国語大学で盛会のうちに開催されたばかりでした。(5) 日本英語学会特別賞・新人賞に加えて、新たに日本英語学会賞の設置を提案し、先に東京外国語大学で開かれた理事会において、設置が認められ、その詳細を詰める段階でした。

これらの施策は、会員の皆様方のことを心底から考えて、本学会の活性化を図り、厳しい状況の下で、本学会をもっと発展させようとするものでした。特に、国際春季フォーラムは、本学会の国際化を推進し、学会の活性化を図る上で、極めて重要な意味を持つものでした。われわれは、故天野会長の敷いた活性化の路線をさらに推し進め、本学会の活動をさらに充実させ、活発なものにしてゆかなければなりません。

強力なリーダーシップを持った献身的な天野会長を失ったことは、本学会にとって大きな痛手です。しかし、それを乗り越えて学会の一層の発展をもたらすためには、会員の一人一人が、日本英語学会のために何をする事ができるかを自らに問い、着実に実行すること以外に道はありません。それが、故天野会長の意志を引き継ぎ、我々の未来を切り開く最善の方法ではないでしょうか。

会員各位におかれましては、さらに一層研究活動を活性化し、よりよい教育を行い、英語（学）教育の質を高め、学会の活動に積極的に関わろう、心よりお願いいたします。悲しみを乗り越えて、我々の未来を共に切り開いてゆきましょう。

第26回大会のお知らせ

日時：2008年11月15日（土）～16日（日）

場所：筑波大学

（〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1）

日本英語学会第26回大会は、大会運営委員会と開催校のご協力とご尽力により、着々と準備が進められています。今大会のスケジュールは以下の通りです。シンポジウムを第2日の午後にまとめましたのでご注意ください。

11月15日（土）

午 前 ：ワークショップ

12：50～13：35：総会

午 後 ：研究発表

17：40～19：40：懇親会

11月16日（日）

午 前：研究発表

午 後：シンポジウム

今年度は、6つのワークショップ、40の研究発表と6つのシンポジウムが予定されています。シンポジウムの内容は以下の通りです。（〔 〕内は司会者、（ ）内は講師と題目）

A. CALLによる英語音声学習への試み—デザイン・理論・実践を通して—（公開）〔立石浩一〕（山田玲子：「英語音声学習環境をデザインする」、立石浩一：「ATR CALLを利用した母音・流音の知覚訓練の結果と意義」、田嶋圭一：「外国語音声リズムの聞き取りと学習」、伊庭緑：「英語発音訓練ソフトの開発・研究・実践」）

B. レキシコンの構造化をめぐる：意味場の視点から〔米山三明〕（松本曜：「反義性再考：語の対立と概念的対立」、岩田彩志：「動詞の意味はどのように文法に反映されるか？構文分析と語彙テンプレート分析を巡って」、松本マズミ：「反語彙主義による動詞統語論」、米山三明：「移動と状態変化」）

C. 談話と統語のインターフェイス〔遠藤喜雄〕（遠藤喜雄：「統語構造地図作成プロジェクトにおける談話情報」、長谷川信子：「CP構造からみた主語と一致現象」、野田尚史：「日本語の談話と統語のインターフェイス」）

D. 英語構文研究：言語理論とコーパス〔深谷輝彦〕（大室剛志：「補部をとる副詞について：周辺部の分析に役立つ大規模コーパス」、都築雅子：「動詞の語彙特性を探る：コーパスデータの量的分析より」、大木力：「カテゴリー形成、パターン認識と構文」、後藤一章：「構文研究と統計」、山梨正明（ディスカッサント）、八木克正

（ディスカッサント））

E. アジアの英語受容—現状と展望〔奥聡一郎〕（平賀優子：「日本における英語受容」、吉川寛：「韓国における英語受容」、河原俊昭：「シンガポール・フィリピンにおける英語受容」、斎藤兆史：「日本人と英語」）

F. 機能範疇の創発—通言語的視点から〔大沢ふよう〕（大沢ふよう：「英語史における機能範疇の創発—言語における個体発生と系統発生」、酒井弘：「機能範疇パラメータ化再考」、保坂靖人：「ドイツ語における機能範疇について」、保坂道雄：「機能範疇はなぜ創発したか」）

公開シンポジウム「CALLによる英語音声学習への試み—デザイン・理論・実践を通して—」については、同シンポジウムの参加に限り無料となっております。なお、本大会の詳しい内容につきましては、9月にお送りする「大会資料・プログラム」をご覧ください。

◇ 大会当日の受付について

大会当日は受付にて大会参加費（2000円）をいただき *Conference Handbook* と名札をお渡しします。名札をつけていない方は入室できませんのでご注意ください（公開シンポジウム(A)のみ参加費と名札なしで入室できます）。また、15日（土）の受付は12時より始めますので早めにお出かけ下さい。

◇ 総会について

15日（土）の12：50より13：35まで総会を開催します。総会では、会長代理の挨拶、開催校代表のご挨拶、大会運営委員会、編集委員会、事務局からの報告、などがあります。会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

◇ 懇親会について

15日（土）17：40より19：40まで、学内の第一エリア食堂において会員懇親会（会費4000円（学生3000円））を催します。多数ご参加下さい。

◇ 証明書等の発行について

大会出席のため、所属機関に提出する証明書等が必要な方は、返信用封筒を同封の上、9月末日までに下記までご請求下さい。書式が定まっ

ている場合には証明印以外の部分を記入したものを
お送りいただければ幸いです。

〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-2 開拓社内
日本英語学会事務局

◇ 学内食堂の利用時間

15日(土)、16日(日)とも昼食時に学内食堂が
ご利用になれる予定です。詳しくは9月に郵送
される「大会資料・プログラム」をご覧ください。

第2回国際春季フォーラムのご案内

第2回国際春季フォーラムは次の通り開催され
る予定です。

日時：2009年4月25日(土)～26日(日)

場所：奈良女子大学

(〒630-8506 奈良市北魚屋東町)

研究発表とワークショップの募集につきまして
は、本ニューズレターに同封の案内をご覧ください。

理事会より

○ 会計

2007年度収支決算書および2008年度予算計画
書について、審議の結果、理事会で承認されまし
た。

○ 役員の異動

会長(退任)

本年6月13日に天野政千代氏(名古屋大学)が
ご逝去されました。ご冥福をお祈りするとともに、
多岐にわたり学会を支えてこられたご尽力に対し
心よりお礼申し上げます。

会長代理(新任)

緊急事態の場合には、理事の最年長の者が会長
代理を務めるという、第41回理事会の決定に基づ
いて、原口庄輔氏(明海大学)が会長代理に就任
されました。

理事(退任)

天野政千代氏(名古屋大学)

理事(新任)

上記理事退任に伴い、外池滋生氏(青山学院大
学)が理事に就任されました。任期は2008年7月
1日より2009年11月30日までとなります。

評議員(退任)

2008年5月31日付けで島村礼子氏(津田塾大

学)が退任されました。長い間評議員を務めてい
ただきまして有難うございます。

評議員(新任)

池内正幸氏(津田塾大学)、金子義明氏(東北
大学)が新たに評議員として委嘱されました。池
内氏の任期は2008年6月1日から2010年3月31
日まで、金子氏の任期は2008年7月1日から
2010年3月31日までとなります。

○ 特別賞選考委員

2008年4月1日付けで、大津由紀雄氏(慶應義
塾大学)、河上誓作氏(神戸女子大学)、原口庄輔
氏(明海大学)が特別賞選考委員として委嘱され
ました。任期は2010年3月31日までの2年間と
なります。

○ 第27回大会(2009年度)の開催校

来年度の大会は、2009年11月14日(土)、15日
(日)、大阪大学(豊中キャンパス)にて開催され
ることが決まりました。

編集委員会より

◇ 編集委員の欠員補充

昨年11月に発足した編集委員会では、発足前
に2期目の委員1名が都合により退任したた
め、1名欠員となっていました。本年6月に、
退任した委員の残任期間を務める委員として池
内正幸氏(津田塾大学)を新たに選出しました。

◇ *English Linguistics*第25巻1号(2008年春 号)の刊行について

EL 25.1(春号)が刊行されました。Article
4編、Notes & Discussion 2編、書評論文8編
が掲載されています。会員の皆様には、7月初
旬に送付されております。

◇ *English Linguistics*第25巻2号(2008年秋 号)の応募論文の審査結果について

電子版投稿体制が導入されたEL 25.2(秋号)
の投稿論文はすべて電子版で応募され、電子版
投稿・審査体制への移行は順調に進んでいま
す。応募論文の審査結果は以下の通りです。な
お、書評論文には4ヶ月書き直しはありません
ので、「審査中」は該当しません。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
Article	12	2	5	1	4
N&D	4	2	2	—	0
書評論文	5	3	1	1	—
4ヶ月書き直し					
Article	0	—	—	—	—
N&D	1	1	—	—	—
合計	22	8	8	2	4

◇ *English Linguistics*第26巻1号（2009年春号）への投稿について

2009年6月発行の*English Linguistics*第26巻1号の原稿締切は、2008年9月20日（土）（必着）です。*EL* 26巻からは、全面的に電子版投稿体制となります。また、表紙のデザインも新装されます。

25巻2号の電子版投稿体制の試行にともない、電子版に即すように整備された「改定版投稿規定」、「電子版投稿用書式見本」、「電子版投稿に関する情報」が本年3月に学会ホームページに提示されましたが、電子版投稿・査読体制が順調に進んだことを受け、編集委員会では、投稿規定の一部をさらに改訂して、投稿部門として新たにBrief ArticleとReviewを導入することが決定されました。これにともなって、本年7月には、「改定版投稿規定（最新版）」、「電子版投稿用書式見本（最新版）」、「電子版投稿に関する情報（最新版）」が学会ホームページに提示されました。

EL 26巻1号に応募される方は、以下のお知らせをよく読み、さらに学会ホームページ上の最新版の規定に則ってご投稿下さいようお願い申し上げます。

*English Linguistics*第26巻1号への投稿についてのお知らせ

編集委員会では、*EL*の投稿論文審査において「length-to-content ratios」という指針を明確にするために、26巻1号からの投稿について、現行の投稿規定に修正を加え、投稿の部門をArticle、Brief Article、Notes and Discussion及び従憑によるReview Article、Reviewの5部門とする最新版に改めることを決定いたしました。

Brief Articleを新たに設ける理由は、以下のよ

うな検討に基づいています。現在Notes and Discussionにいろいろな完成度の論文が投稿されていますが、投稿の部門を論文の上限の長さでのみ規定するのではなく、質的な基準も明示することにより、会員の論文投稿の自由度を広げ、多角的観点から投稿論文を適切に審査する方が研究活動をより活発にすると考えられます。

Brief Articleに該当する論文は、「ひとつの研究成果を実証的に論証していて、できるだけ発展性を備えたまとまりのあるもの」とします。従来、Articleとして投稿される論文の中には、内容に比して必要以上に長く論じているものがあり、今後は、このような論文は査読の結果によっては、簡潔にまとめ直してBrief Articleにすることを求めることもありえます。また、これまで小さなトピックということでNotes and Discussionに投稿されていた論文の中にも、もう少し紙数を使って十分に論ずればArticleに相当するようなものも散見されます。このような論文については、Brief Articleとして書き直して再投稿することを推奨することもありえます。

今後Notes and Discussionに該当する論文は、「比較的限定されたテーマや現象について、必ずしも完結した結論や分析を提示していないが、興味ある言語事実の指摘や示唆に富む分析を含む研究」、「先行研究で提示されている分析に対する反例の指摘や批判的論考を含む研究」、「調査研究で得られた知見の中間報告となる研究」等、萌芽的研究成果を有するものとします。

Articleに該当する論文は、「独創性に富み、充実した研究成果に見合った長さを有し、質的にも完成度の高いもの」とします。

また、これまで編集委員会の決定による従憑に応じて投稿される論文は、「対象本の内容を正しく紹介しているだけでなく、Articleとして、対象本で提示されている分析等の問題点を明らかにし、さらに、執筆者の新たな分析案等を緻密な論証を経て提示しているもの」とされるReview Articleだけでした。Review Articleは、1年程度かけて執筆され審査期間も入れると刊行までに2年以上もかかるものでした。

従憑による投稿の部門に新たにReviewを導入します。Reviewは、会員にできるだけ新しい研究動向を迅速に提供することを目指すもので、編集委員会で多様な観点から有用な知見を含むものと評価されうる研究書を選定し、6ヶ月程度の執

筆期間で依頼されます。Reviewに該当する論文は「対象本の内容を正しく紹介しているだけでなく、対象本の当該研究領域における位置づけや評価を明確にするもの」とします。今後は、Review Articleの掲載数を減らし、Reviewを数多く掲載するようにしていきます。

以下の表は、上記のように規定されたArticle、Brief Article、Notes and Discussion及び懲憑によるReview Article、Reviewという投稿の部門の詳細を、「論文の書式（Abstractの有無）」、「投稿論文の長さの上限」、「投稿締め切り日」、「評価（4ヶ月書き直しの有無）」という観点からまとめたものです。

	Abstract	長さの上限 (Word Count)	締め 切り	4ヶ月 書き直し
Article	有	40pp. (ca. 12,000)	4/1 9/20	有
Brief Article	有	20pp. (ca. 6,000)	4/1 9/20	有
Notes and Discussion	無	12pp. (ca. 3,600)	4/1 9/20	無
Review Article	有	40pp. (ca. 12,000)	4/1 9/20	有
Review	無	12pp. (ca. 3,600)	7/20 12/20	無

(Reviewについては、論文のタイトルは対象本の書名のみとします。)

EL 26巻1号からの投稿では、以上の改定を踏まえて、Article、Brief Article、Notes and Discussionのいずれの投稿の部門に該当する論文であるかを表紙のファイルに明記してご応募下さい。新体制による懲憑の執筆については、Review ArticleはEL 27巻1号から、ReviewはEL 26巻2号からとなり、本年7月には新体制による執筆依頼がなされます。

電子版投稿・査読制度の確立により、ELの編集日程に時間的余裕ができましたので、当該号に掲載されうる1次審査通過論文については、すべての投稿の部門について、今後は「6週間の書き直し」とされます。EL 25巻1号のEditorial Notesに明記されているように、1次審査通過論文の執筆者には「英語表現」及び「書式」の見直しが厳しく求められます。「論文審査結果」に基づき書き直した修正原稿は、必ずネイティブ・チェックを受けてから再投稿して下さい。

今後投稿論文にキーワードを付す際には、以下

のような「分野の細目」を参考にして下さい。

1) phonetics/phonology、2) morphology、3) syntax、4) (formal/lexical/conceptual) semantics、5) pragmatics、6) cognitive linguistics、7) historical linguistics、8) corpus linguistics、9) linguistic typology、10) (first/second) language acquisition、11) sociolinguistics/psycholinguistics /neuro-linguistics

複数の分野にわたる研究論文には、たとえば、syntactico-pragmaticsとか、syntax-semantics interfaceのようなキーワードを付すこともできます。

大会運営委員会より

□ 第26回大会の個人研究発表への応募の審査結果

個人研究発表へは63篇の応募があり、審査の結果、本大会では40篇の研究発表が行われることになりました。

□ 第1回国際春季フォーラムの報告

第1回国際春季フォーラムは、2008年4月26日(土)・27日(日)の両日、東京外国語大学において開催されました。本フォーラムでは、2つの特別講演、2つの特殊講義、20の口頭発表、2つのポスター発表、3つのワークショップが行われました。国内外から多数の参加者があり、活発な議論が展開されました。フォーラムの運営を支えて下さった開催校の先生方や、国際春季フォーラム実行委員、大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心より御礼申し上げます。

「第6回(2008年度)日本英語学会 新人賞」論文募集のお知らせ

2007年度の新人賞論文応募で電子版体制が試行され、問題なく実施できましたので、2008年度以降の新人賞論文の応募はすべて「新人賞電子版応募に関する情報」(以下参照)を踏まえた電子版応募といたします。

応募論文は、英語の共時的・通時的研究、言語の一般理論に関する研究、あるいは英語と他言語(特に日本語)との比較研究を取り扱った未刊行論文(working papers、同人誌、紀要、学会

proceedingsに発表した論文を発展させたものを含む」とし、受賞論文（新人賞、研究奨励賞）は、学会誌 *English Linguistics* に掲載いたします。なお、2008年度より従来佳作とされた受賞は研究奨励賞と改められました。

新人賞応募論文の選考は第1次選考と最終選考の2段階審査で行なわれます。新人賞あるいは研究奨励賞となる受賞論文は、「論理性・実証性」、「全体的まとまり」、「英語表現の適切性」という評価基準において一定の水準に達しているもので、特に「独創性・発展性」という点において、独創的な分析や主張を含んでいるもの、あるいは言語研究に対して新たな展開を示唆するような論考を含んでいるもの、またあるいは（論争の余地があっても）有意義で興味深い問題を新たに提起していて、今後の発展が窺えるものといえます。

博士論文研究を進めている方、修士論文研究や博士論文研究を踏まえて、さらに新たな研究を展開している方、研究助成費等による萌芽的研究成果をさらに進展させている方など、多くの若手会員のみなさ様が新人賞へ応募されることを期待しています。

2008年度日本英語学会新人賞への応募詳細

- ①締切日：2008年8月25日（月）必着
- ②送付先：shinjin-toko@kaitakusha.co.jp
- ③応募資格：締切日の時点で、37歳以下、または大学院修士課程修了10年以内の日本英語学会会員（非会員で応募希望の方は、締切日までに、必ず学会支援機構 elsikaian@asas.or.jp に入会手続きを済ませてから応募すること）
- ④応募論文の上限の長さ：EL書式設定に従い、（引用文献・脚注を含む）論文本体の長さは40枚（12,000語程度）以内

2008年度新人賞電子版応募に関する情報

1. 電子版応募原稿は、(1) 表紙（論文題目、氏名、所属、謝辞）と、(2) タイトル、100語程度の英文のAbstract、論文本体（本文、引用文献、脚注）の2つの部分から構成される1つの（ファイル作成者名がない）PDFファイルとして応募メールに添付して送付すること。ページ番号は(2) から付すこと。なお、PDFファイル作成の際、フォント情報は全て埋め込むこととするが、Times New Roman及びSymbol以外のフォントを用いた場合は、その旨をメール

に明記すること。なお、PDFファイルでの送付が難しい場合には、Wordファイルで送付のこと。

2. shinjin-toko@kaitakusha.co.jp に上記1のPDFファイルを送付すること。メールの「件名」は「新人賞応募論文（氏名）」、ファイル名は5文字以内の半角アルファベットとする。メールには論文題目、氏名、および上記1で注記したフォントに関する情報を記す。なお、略歴および業績一覧表についてもメールに別ファイルで添付すること。

上記のアドレスにPDFファイルを送信すると、開拓社からは受信通知メールが届く。事務局からは、その後、PDFファイルの点検後5日以内に受領確認メールが送られる。開拓社からの受信通知メールが一両日中に届かない場合には、PDFファイルを必ず再送信すること。それを怠ると、応募論文が審査の対象になりえない可能性が生ずる。

3. 応募原稿の書式は、日本英語学会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/elsi/el.html> に掲載されている「EL電子版投稿用書式見本（2008）」によること。
4. 一次審査の結果は10月中旬までに応募者にメールで通知する。一次審査を通過した論文については、最終選考結果を12月中旬までにメールで通知する。

2007年度会計報告

2007年度収支決算書（2008年4月1日現在）が監事（瀬田幸人氏、伊藤たかね氏）による監査を経て、理事会で承認されました。

2008年4月1日
日本英語学会会長 天野政千代

収入	¥24,392,191
支出	¥15,404,871
2008年度への繰越	¥8,987,320

【収入内訳】

2006年度より繰越	¥8,895,200
会費	¥11,734,500
大会参加費	¥1,114,000
JELS予約金	¥432,000
科研費と利息	¥1,601,096
利息	¥13,132

雑収入	¥552,263
寄付	¥50,000
合計①	¥24,392,191

【支出内訳】

EL 刊行費	¥5,585,775
NL 等印刷費	¥76,176
業務委託費関係	¥2,471,844
事務委託費	¥1,163,105
発送費	¥1,308,739
大会関係費	¥2,260,743
印刷費	¥742,833
運営費	¥748,225
謝金	¥769,685
JELS関係費	¥414,445
委員会関係費	¥1,538,934
旅費	¥1,387,825
会議費	¥151,109
事務局関係費	¥2,932,329
賃貸料	¥0
人件費	¥2,644,410
通信費	¥196,584
消耗品費	¥60,820
謝金	¥0
交通費	¥21,560
資料コピー費	¥0
その他	¥8,955
新人賞・特別賞費	¥124,625
記念品	¥14,625
副賞	¥100,000
賞状	¥10,000
協賛学会への助成	¥0
特別事業費への繰り入れ	¥0
予備費	¥0
合計②	¥15,404,871

2008年度予算計画書

次の予算計画が理事会で承認されました。

2008年6月28日現在

2007年度より繰越	¥8,987,320
2008年度収入	¥15,492,000
	¥24,479,320

【収入内訳】

会費（2008年度）	¥11,337,000
大会参加費（春）	¥345,000

大会参加費（秋）	¥1,300,000
科研費	¥1,400,000
利息	¥10,000
雑収入	¥600,000
JELS26 予約金	¥500,000
合計	¥15,492,000

2008年度支出	¥16,094,551
2009年度への繰越	¥8,384,769
	¥24,479,320

【支出内訳】

EL 刊行費	¥4,500,000
NL 等印刷費	¥120,000
業務委託関係費	¥2,600,000
事務委託費	¥1,200,000
発送費	¥1,400,000
大会関係費（春）	¥390,551
印刷費	¥0
運営費	¥339,111
謝金	¥51,440
大会関係費（秋）	¥2,400,000
印刷費	¥800,000
運営費	¥800,000
謝金	¥800,000
JELS26 関係費	¥450,000
委員会関係費	¥1,600,000
旅費	¥1,400,000
会議費	¥200,000
事務局関係費	¥3,164,000
賃貸料	¥84,000
人件費	¥2,650,000
通信費	¥200,000
消耗品費	¥100,000
謝金	¥10,000
交通費	¥10,000
資料コピー	¥10,000
その他	¥100,000
新人賞・特別賞費	¥270,000
記念品	¥60,000
副賞	¥200,000
賞状	¥10,000
協賛学会への助成	¥100,000
予備費	¥500,000
合計	¥16,094,551

2008年度内収支	2008年度収入	¥15,492,000
	2008年度支出	¥16,094,551
		¥－602,551

2009年度への繰越 2007年度繰越 ¥8,987,320
2008年度内収支 ¥-602,551
¥8,384,769

[備考] 特別事業費(別会計)の現在残高は500万円となっております。

事務局より

- 2008年3月31日現在の会員総数は、1,556名です。会費未納の方は、学会支援機構から送られました振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会員規定第3条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意下さい。
- 研究発表応募規定、EL投稿規定、新人賞応募に関する規程等が改定される場合には、ニューズレターとホームページにてお知らせいたします。特に、ホームページには最新の情報が掲載されますので、定期的に閲覧することをお勧めします。
- 最近、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」の整備が急速になされつつあり、ELに掲載された論文をそれに登録したいのご希望が寄せられています。本会では「情報管理規定」を制定し、発行後4年以上経過した論文の登録をお認めしています。このような登録のご希望や自著への再掲載のご希望をお持ちの方は、事前に事務局宛ご連絡いただければ幸いです。
- ご所属の大学図書館や研究室でELを購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。ELの認知度がさらに高まるだけでなく、本会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願いいたします。
- 親と子の部屋について

第26回大会の「親と子の部屋」は、設備の充実化に伴い、ご利用者の方に一部をご負担いただきます有料利用とします。従来のベビーシッター派遣に加え、保育に必要な備品(お昼寝用の布団、おもちゃなど)のレンタルを導入し、会員の皆様とお子様が安心してご利用できる保育室の運営を予定しています。

第26回大会での「親と子の部屋」ご利用のお申し込みは、10月10日(金)までに、日本英語学会事務局(elsj@lit.nagoya-u.ac.jp)までご連絡下さい。その際、ホームページ上の「利用案内」をお読みいただき、それに同意の上お申し込み下さい。メールの件名は「親と子の部屋

利用申し込み」とし、本文に①保護者の方のお名前、②お子様のお名前・年齢、③ご利用希望日時、をお書き下さい。なお、ご不明な点についてのお問い合わせも、学会事務局までお願いいたします。(事前にお申し込みのない方の当日受け入れはできませんので、ご注意下さい。)

○ 連絡先等変更のご連絡のお願い

新人賞応募、研究発表応募、EL投稿の電子化に伴い、学会から会員の方々に電子メールで連絡する機会が増えています。つきましては、メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡いただき、電子版投稿・審査体制の下での学会運営にご協力いただきますようお願いいたします。連絡方法については、ホームページをご覧ください。

編集後記

会長代理挨拶にありますように、6月13日に天野政千代前会長が逝去されました。昨年4月の会長就任以来、学会の経費削減に取り組む一方で、国際春季フォーラムの開催など学会活動の拡充に尽力されてきました。一番近くにいて学会運営に携わってきた事務局員にとっては、非常に悲しい出来事でしたが、その直後から元会長や理事の先生方のご支援により、何とか学会運営を立て直し始めています。今後しばらくの間は、原口庄輔会長代理の下、現事務局が担当してまいりますので、会員の皆様にはご協力を賜りますようお願いいたします。

現在、11月15日～16日に筑波大学で開催される第26回大会に向けて、大会運営委員会、開催校委員、事務局員等、全力を挙げて準備を進めております。大会が盛会となりますように、どうかご参加いただき、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

(田中)

2008年7月31日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 原口 庄輔

発行所 日本英語学会

<http://www.soc.nii.ac.jp/elsj/>

〒113-0023

東京都文京区向丘1-5-2

開拓社内

電話 (03) 5842-8900



古紙配合率70%再生紙を使用しています